

大野南地域 まちづくり提言書



平成20年5月
大野南地域まちづくり会議

提言にあたって

私たちのまちである大野南地域は、市の東南に位置し、東に境川を境とする町田市、南に大和市と隣接しています。まちの中央を横断する国道16号や県道51号（行幸道路）、新宿と小田原・江ノ島方面を結ぶ相模大野駅を有するなど交通の要衝として利便性の高いまちであり、相模原市の「南の玄関口」といわれております。

また、デパートや商店街、大学やグリーンホール相模大野、南メディカルセンター、南保健福祉センター等の公共施設などが整備された、暮らしに便利で、文化と福祉にも恵まれた素敵なまちです。さらに、相模大野駅北口の西側地区における再開発事業が進むなど、ますますの発展が期待されています。

このたび、市の新しい総合計画及び新都市計画マスタープランの策定にあたり、このまちで暮らす住民の視点から、地域のまちづくりについて提言するため、「大野南地域まちづくり会議」を組織いたしました。私たちはこの会議において、将来の発展をめざし、安全・安心なまちづくりなど、みんなが暮らしやすいまちとなるよう様々な地域の課題やその対応策について、きめ細やかに多くの意見を出し合い、「大野南地域まちづくり提言書」としてまとめました。

よりよいまちづくりに向けて、私たち住民の願いが込められた「大野南地域まちづくり提言書」が活用され、まちづくりにおいて実現されることを期待するとともに、その進捗状況についてご報告くださいますようお願いいたします。

平成20年5月

大野南地域まちづくり会議

会長 川上 裕男

目 次

1 地域の現況と課題	P 1
2 重点提言	P 1
人に優しい歩行者優先のまちづくり	
安全で快適な住環境の形成	
まちのにぎわいを創り出す商業の振興	
生涯にわたり安心な暮らしを支える医療・福祉体制の充実	
豊かな心と健やかな成長を育む生涯学習環境の整備	
人と人の絆を深め互いに支えあう地域づくり	
3 分野別提言	P 5
(1) 交通・都市基盤	
(2) 商業・経済	
(3) 環境	
(4) 文化・教育	
(5) 医療・福祉	
(6) 地域コミュニティ	
(7) 安全・安心	
4 提言図 (重点提言)	P 20

(付属資料)

* 会議経過・委員名簿

1 地域の現況と課題

本地域は、小田急線「相模大野駅」を中心に、国道16号と県道51号が交差し、中心市街地である相模大野駅周辺は、市の「南の玄関口」として位置づけをされています。

交通の要衝としての高い利便性を活かし、相模大野駅周辺に高層住宅や商業・業務施設、文教施設などが整備された商業地・文教地区である一方、公園や緑道、境川の水辺などの自然を残した住宅地としての広がりをもつまちです。

都市機能の集積によって、人が多く集まるまちとして発展してきましたが、交通環境や治安の悪化、放置自転車や米軍機騒音・景観・ごみ問題等による住環境の悪化などの多くの課題が生じています。

また、住民の高齢化やライフスタイルの多様化が進む中、地域の状況に対応する医療・福祉サービスの充実、生涯学習環境の整備、商業の振興、コミュニティづくりなどが求められています。

2 重点提言項目

本地域は、次の6点を重点的な提言とします。

人に優しい歩行者優先のまちづくり

だれもが安心して歩いて暮らすことができるまちをめざします。

自家用自動車に頼らない歩行者優先のまちづくりが必要です。

相模大野駅北口では、自家用車、路線バス、タクシー、荷捌き車などが輻輳し、歩道が狭い箇所もあるため、歩行者が安全に歩ける環境をつくる必要があります。

駅から離れた地区では、自家用車に依存せず、誰もが快適に移動できるように、

コミュニティバスや乗り合いタクシーなどを導入し、公共交通網を充実することが必要です。

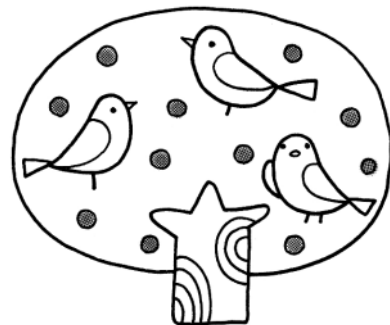
また、駅と学校、公園、緑地など多くの人が利用する場所の回遊性を高めるため、それぞれの場所から場所へ安全に移動できる緑地自転車歩道（緑道機能を兼ね備えた歩行者・自転車専用道路）の整備が必要です。

安全で快適な住環境の形成

だれもが安心して心地よく暮らすことができるまちをめざします。

住環境の安全性と快適性を高めるため、地域と関係機関が連携し、まちの美化意識や自転車の利用マナーの向上を図るとともに、防犯パトロールなどによる犯罪が起きにくい環境づくりや避難訓練の実施など災害に備えたまちづくりに取り組むことが必要です。そのほか、住宅を主体とした地区については、まちなみの調和を図るために建物の絶対高さの制限を設けることや身近な緑と水辺の保全・活用による景観に配慮した潤いあるまちづくりが必要です。

さらに、快適で心地よく暮らすために、米軍航空機の騒音解消にむけて、国へ強く要請していくことが重要です。



まちのにぎわいを創り出す商業の振興

商店街と大型店が共存し、ともに発展するまちをめざします。

商店街とともにチェーン店などの大型店も地域商業の発展を担う役割をもち、商店街と一緒にまちのにぎわいづくりと一体となった地域振興に取り組むことが重要です。

また、交流とにぎわいの場として、地域の伝統や文化などを活かした祭り・イベントなどを充実するとともに、楽しく買い物や飲食ができる魅力ある個店づくりや快適に買い物・娯楽を楽しむことができる休息場所の工夫、様々なサービスを提供する店舗の集積など、楽しく便利に過ごすための多様な魅力を高め、まちの個性を創出することが重要です。

生涯にわたり安心な暮らしを支える医療・福祉体制の充実

地域で助け合いながら、安心して子育てができ、老後を過ごすことのできるまちをめざします。

地域の助け合い支える福祉ボランティアの人材確保を進めるとともに、適切な医療・福祉サービスの利用ができるよう、地域と行政による身近でわかりやすい情報の提供や相談・支援体制の充実に努めることが必要です。

また、身近な地域で緊急時に24時間対応できる医療体制の整備が必要です。

豊かな心と健やかな成長を育む生涯学習環境の整備

学びあい、心豊かに人生をおくることができるまちをめざします。

学校・地域・家庭の連携を深め、地域の文化・教育施設を拠点として、子どもから高齢者にわたる幅広い年代の人たちが交流し、学びあう仕組みづくりや様々な体験を通して楽しみながら学びを継続できる環境づくりに取り組むなど、生涯にわたる学びの基本となる意欲や能力などを育む環境の整備を進めていくことが重要です。

人と人の絆を深め互いに支えあう地域づくり

挨拶がとびかう、ふれあいと助け合いのあるまちをめざします。

祭りや催しものなどの新旧住民や世代間の交流を図る出会いとふれあいの場を充実し、挨拶からはじまる豊かな人間関係を築いていくことが重要です。

また、祭りや防災訓練等の地域活動を通して自治会の加入を促進するなど、安全や助け合いを支える地域コミュニティの重要性と魅力を伝え、より多くの住民が地域活動に参加するよう働きかけていくことが重要です。



3 分野別提言

(1) 交通・都市基盤

現状・課題

本地域は、横浜線、小田急線、田園都市線の駅が近隣にあり、都心や横浜方面、県西部へのアクセスがよい、広域的な交通利便性の高い地域である。また、地形的には相模原台地上の平坦地が多く、徒歩や自転車による移動が便利な地域である。

その一方で、地域の一部では、駅やバス停から遠い場所や路線バスの運行本数の減少、乗り継ぎの悪さなどにより、市役所方面など、市北部への公共交通機関での移動がしにくいという課題もある。また、都市計画道路の整備が進んでいないことや、生活道路の幅員が狭い箇所もあり、交通渋滞や安全な歩行空間が確保されていない場所も多い。

相模大野駅周辺などでは、新たなまちの核となる「相模大野駅西側地区市街地再開発事業」が進められており、都市基盤の一層の充実が図られようとしている。一方で、利便性の高さからマンションなどの高層建築物の建設が進んでおり、建築物の高さや色といったまちの景観（まちなみ）に配慮したまちづくりが必要である。

また、自転車の違法駐輪や自動車の違法駐停車など、利用者のマナーも課題となっている。

提言項目

広域交通網の整備

- ・ 生活道路から通過交通を排除するため、町田厚木線、東林間線などの都市計画道路の整備を促進する。
- ・ 市役所方面への交通アクセスの向上を図る。

身近な交通環境の整備

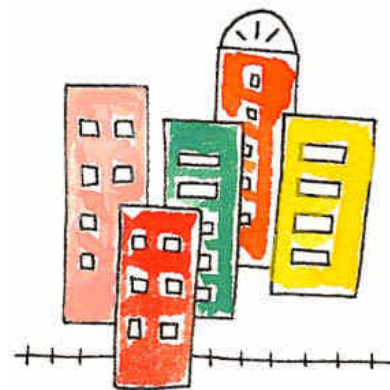
- ・ 誰もが安心して歩くことができるバリアフリーに配慮した歩道を整備する。
- ・ 狭隘な生活道路については、沿道の住民の理解を得ながら拡幅整備する。
- ・ 自転車の通行量の多い歩道については、歩行者と自転車を分離した歩道を整備することにより、お互いの安全性の向上を図る。
- ・ 自家用車に頼らず移動できる環境を整えるため、コミュニティバスや乗り合いタクシーなどの導入により、交通不便地区の解消を図る。
- ・ 学校、公園、緑地をネットワーク化し、回遊性を高めるため、それぞれの間を安全に移動できる緑地自転車歩道（歩行空間）を整備する。

良好な景観の形成

- ・ 地域のまちづくりへの意識を高めるため、行政はまちづくりのアドバイスや情報提供を積極的に行う。
- ・ 景観や生活環境を保全するため、地区計画や地区街づくり協定の導入に向けた取り組みを行う。
- ・ まちなみの調和を図るため、住宅を主体とした地域については、建物の絶対高さ制限を設ける。

駅周辺のまちづくり

- ・ 歩行者が安全に歩けるまちを目指し、中心部への自動車の乗り入れを規制することを検討する。
- ・ 相模大野東通り線の歩道が狭く暗いので、拡幅整備する。
- ・ 地域と警察が協力して違法駐車対策に取り組むとともに、公共駐車場の利用を促す。
- ・ 公共駐輪場の増設や民間駐輪場の整備へ助成を行い、駐輪台数を確保するとともに、使いやすさを向上させることにより、違法駐輪を減らす。
- ・ 防災性の向上や景観の観点から、電線類の地中化工事を行い、中心市街地の魅力を高める。



(2) 商業・経済

現状・課題

商業地域の核となるデパートや商店街、物価の安い大型スーパーがあるなど生活に必要なものを購入できる店や飲食店が多く、商業が集中している地域である。

まちの賑わいを創出する新たな核として「相模大野駅西側地区市街地再開発事業」が進んでいる。また、商業者による集客効果のあるイベントや自治会による地域の伝統行事など「まち」を意識した諸行事がうまれつつあるなど、賑わいと魅力の創出に取り組んでいる。

しかし、補助金頼みの画一的なまちづくりやチェーン店の増加、小規模なまちに根ざした店や特色ある店の減少に伴う商店街の魅力の低下によって、まちの個性は失われつつある。また、少子高齢化等の影響によって、一部の祭典は盛り上がり欠けている状況にある。

これぞ「相模大野」というまちの個性を創出し、まちの回遊性、滞留性を高めていくことが今後の発展に重要である。

提言項目

まちの特色づくり

- ・まちの伝統や文化などを特色としたイベント、祭り、定期的な催事などの取り組みを更に充実し、交流と賑わいの場としての機能を高める。
- ・まちのメインストリートであるコリドーを、商店街の合同イベントの開催など、賑わいづくりの場として有効活用する。
- ・*ポケットパークなどの休息場所等を工夫して、快適に買い物や娯楽を楽しむことができるまちにする。

商店街の活性化

- ・フランチャイズチェーンも商店街に加わり一緒に活動をし、まちのにぎわいづくりと一体となった地域振興を行う。
- ・飲食・物販の分けをせずに、大野南地域にある全ての商店街がひとつになり活動をしていく。
- ・個人店は集客効果のある独自の特色や魅力をつくる。
- ・相模大野駅を利用する住民や来訪者にまちの案内やPRをするため、ペDESTリアンデッキ等を活用し、商店街の店舗案内やイベントなどの情報提供を行うことができる電子案内表示システムの設置など、情報発信を充実する。

商業等の集積

- ・サービス業等の企業の集積を促進し、まちの利便性や集客力を向上させ、通勤者や利用客など来訪者の増加を図る。

*ポケットパーク...道沿いや街区内の空地などを利用した小さな公園や休憩場所

(3)環境

現状・課題

【ごみ問題】

多くの人々が集まり暮らすまちであるが、人の集まりがまちのごみ問題を生んでいる。拠点として多くの人々が集う相模大野駅周辺は「ごみの散乱防止によるまちの美化の推進に関する条例」における「空き缶等散乱防止重点地区」に定められている。

相模大野駅北口地区については夜間収集事業実施地区として一般家庭の一般ごみ夜間戸別収集と商業者の共同排出事業による事業系ごみの夜間戸別収集を行っている。

相模大野駅を中心にまちの美化を進めているが、ごみ・タバコのポイ捨てやペットの糞を放置するなどまちを汚す行為が多い。

また、ごみの集積所ではごみの出し方についてルール（時間や分別）が守られていないことがある。

【みどり・水】

市街地にある貴重なまちの緑や水辺は、暮らしや心に潤いを与えている。都市化により総体的に緑資源の減少傾向があるが、緑道、公園、境川沿いのサイクリング道路、農地、学校の敷地などに緑が残っている。

【米軍機騒音】

米軍機による騒音は厚木基地の離着陸コースの下にあるため宿命的な問題である。爆音によって生活環境が損なわれ、住民の生活に深刻な影響を与えている。

提言項目

まちの美化の推進

- ・「ごみの散乱防止によるまちの美化の推進に関する条例（ポイ捨て禁止条例）」の周知を図る。
- ・自己責任において処理をする持ち帰り運動などのマナーの向上を啓発する。
- ・住民や学生・買い物客等の来訪者に対して、まちの美化意識を高めるための方策をさらに検討する。

みどりと水の保全と拡充

- ・小さな空き地を緑の空間にするなど、まちづくりの中でみどりの創出について配慮を行う。
- ・散策や子どもの遊び場など安らぎやレクリエーションの場として公園・広場等の*オープンスペースを拡大するとともに、それらのネットワーク化を図る。
- ・農地の保全など現状のみどりを維持するとともに、街路樹、個人宅の樹木などの緑を増やす。
- ・境川を水に親しむ憩いの空間として保全・活用する。
- ・川やみどりに親しむ環境体験学習などや日常生活における環境保全活動を通して、環境意識の向上を図る。

米軍機騒音の早期解消

- ・基地の返還・縮小を強く求めるとともに、緊急の課題として騒音解消を国に強く要望する。
- ・住宅防音工事区域の拡大を国に要請するとともに、住宅防音工事区域の周知徹底を図る。

*オープンスペース...都市公園、近郊緑地特別保全地区、緑道、スポーツ広場、多目的広場、児童公園、校庭等をいう

(4)文化・教育

現状・課題

【文化】

大学・学校、図書館、グリーンホール等の文化・教育施設が比較的整備されており、文教地区として発展している。また、学生が多く、比較的多くの芸術家・文化人が住んでいる。これらのことから、地域として文化的なイメージがあり、まちの雰囲気づくりに貢献している。

しかし、地域の文化活動において、これらの施設や人材など地域の文化・教育資源を十分に活かしたものとなっていない。

【教育】

社会の変化や地域の課題などに対応する意欲・能力、さらには生きがいを育むためには、学校・地域・家庭の連携を深め、地域の文化・教育施設の相互利用や人材の育成・活用に積極的に取り組み、子どもから高齢者まで、多様な学習ニーズに対応できる学習環境の整備を進める必要がある。

また、学校にあっては、児童・生徒数の増加傾向による教室等の学校施設のゆとり不足や施設の老朽化が進んでいるところもある。児童・生徒数に見合った規模の整備が不十分であることから、同じ地域内であっても、小学校間・中学校間の施設等に差がある。

提言項目

文化活動の活性化

- ・ アートをまちづくりのテーマとして、地域・学校・企業などが連携し、地域ぐるみで取り組む文化事業の展開を図る。
- ・ 地域の文化・教育施設の活用や人材・企業の協力のもとに、舞台芸術や生活・伝統文化を身近に体験する機会を充実する。
- ・ 公園、歩道等の公共空間を活用し、作品展示やコンサートを行うなど、文化活動の発表の場を充実する。

学習環境の充実

- ・ グリーンホール・学校・公民館など地域の文化・教育施設を拠点として、子どもから高齢者にわたり、住民が地域の人材と交流し、学びあう仕組みづくりを進める。
- ・ 学校施設の地域開放やイベント、体験学習など、地域住民、保護者と相互に交流する機会を増やし、学校・地域・家庭の顔の見える関係づくりを行う。
- ・ 地域内の小・中学校や高校、大学における学校間の連携を進め、施設の相互利用・人材交流による体験学習や進学・学習についての情報交換などを行い、学習内容や指導などを充実する。
- ・ 学校の環境などに差が生じないように、整備計画の推進や学区の見直しなどの対策を進める。
- ・ 障害などにより学習や生活面で支援を必要とする子どもたちに対応するため、学校カウンセラーの配置や特別支援教育の拡充などの体制づくりを進める。
- ・ 健全な食習慣の形成などの食育や子育て支援の観点から、中学校の完全給食を実施する。

(5) 医療・福祉

現状・課題

相模大野駅付近を中心として、病院などの医療のネットワークが比較的できている地域であるが、子どもが急患の時に24時間対応を行う医療施設が近くにないなど緊急時の医療体制については不十分である。

福祉ボランティアなどの活動に携わる住民がいるが、地域の人口に対してボランティアの数は少ない。ボランティアに関する情報や子育て・介護などの保健医療・福祉関係の情報は多くあるが、情報が伝わりにくく、住民が共有することができていない。

また、夫婦共働き家庭の一般化などのライフスタイルの変化が進み、身近に安心して子どもを預けることができる施設が必要であるが、乳児等の保育園等への待機児童が多い状況にある。

さらに、住民の高齢化が進んでいるが、ニーズに対して高齢者福祉施設が少なく、特別養護老人ホームへの入居待ちなどの問題がある。

提言項目

医療・福祉情報の充実

- ・福祉ボランティアを増強するため、福祉ボランティアへの意欲をもつ住民が参加しやすいよう、関係団体等のホームページを工夫するなど、福祉ボランティア情報の効果的な発信方法を検討する。
- ・医療や福祉の様々なサービスがあるが、介護や子育てなどでサービスを必要とする際に有効活用できるよう、医療・福祉サービスの情報提供と相談・支援の体制を充実する。
- ・診療科目・診療時間などの病院情報の収集や情報発信を充実する。

医療・福祉体制の向上

- ・南メディカルセンターにおける小児科の夜間診療の実施など、身近な地域で24時間対応できる医療体制を整える。
- ・保育園や高齢者福祉施設の増設や定員拡大など受け入れ施設を充実し、待機者の解消を進める。



(6) 地域コミュニティ

現状・課題

東京都内への通勤・通学するものが多く、昼間において労働年代が地域にいない。また、核家族も多く、世代間のつながりも薄い。住民の生活感覚や生活圏の違いにより、地域への関心の高さも異なる。

大規模集合住宅の増加に伴い、若い世代や子どもも増えており少子化を感じさせないが、古い集合住宅においては、空室が増えておりスラム化が懸念される。住宅地においては、高齢化が進み、子世帯への転居などが増えてきており、昔からの住民が減少しつつある。

新しい住民が増加し、現在の地域のつながりを築いてきた昔からの住民の減少に伴い、住民同士の連帯感や地域のつながりが薄れてきている。

このような中、自治会の存在意義を理解する住民が少なくなり、自治会加入率が低迷している。

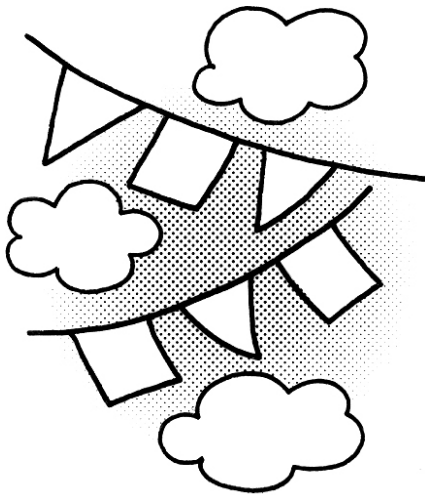
提言項目

自治会の加入促進

- ・マンション建設・入居の際に、自治会と開発事業者・管理組合が連携し、自治会加入を条件としたマンションになるよう努める。
- ・自治会の重要性をアピールするため、防災訓練や避難所運営の訓練を行い、住民の関心を高める。
- ・大規模災害が生じた場合、市職員も被災者となり市の現場対応はすぐにはできないので、地元の救援活動は自治会であるという意識をもたせるよう啓発する。

地域のつながりの醸成

- ・地域の催しや清掃等の地域活動を通して、新旧住民や世代が異なる住民間のコミュニケーションを図り、互いの連携を深め、地域の課題や事業に共同して取り組む意識を高める。
- ・様々なライフスタイルをもつ住民が参加しやすい、子ども会や自治会活動になるよう展開を図る。
- ・若い世代から高齢者まで多くの住民が地域の情報を共有できるよう、駅への掲示や電光掲示板の設置など情報発信の工夫をする。
- ・若い世代から高齢者まで様々な世代の人が交流して暮らすモデル地域をつくる。



(7)安全・安心

現状・課題

【防犯】

市内のなかで犯罪発生件数が多い地域であるが、犯罪発生件数に対して交番や警察官が少なく、防犯体制に不安がある。特に、JR 町田駅付近については治安や環境の悪化に不安がある。また、境川沿いや住宅地では、防犯灯の未設置箇所や配置の間隔が広く暗い箇所があるなど、犯罪が起こりやすい危険な箇所がある。

【防災】

地形の大半が平坦で地盤が強いといわれており、地震や台風などの災害に対して地形的な条件は比較的有利である。全自治会を通じての伝達訓練を実施するなど自治会を中心に災害に備えた活動が行われている。

また、地域の消防機能の拠点となる南消防署、上鶴間分署があり、災害や救急時に対する消防体制が身近に整備されている。

提言項目

防犯体制の強化

- ・地域の治安を守る警察官の増員や相模大野駅前交番を目立つところに移動するよう要請をする。
- ・警察へ風俗店の取り締まりや地域の巡回パトロールなどの街頭犯罪抑止活動の強化を要請する。
- ・「ひと声運動」や防犯パトロールなどの地域の防犯活動を充実する。
- ・高照度型防犯灯への切替えや防犯灯の配置の見直しとともに、点検と補修を徹底する。

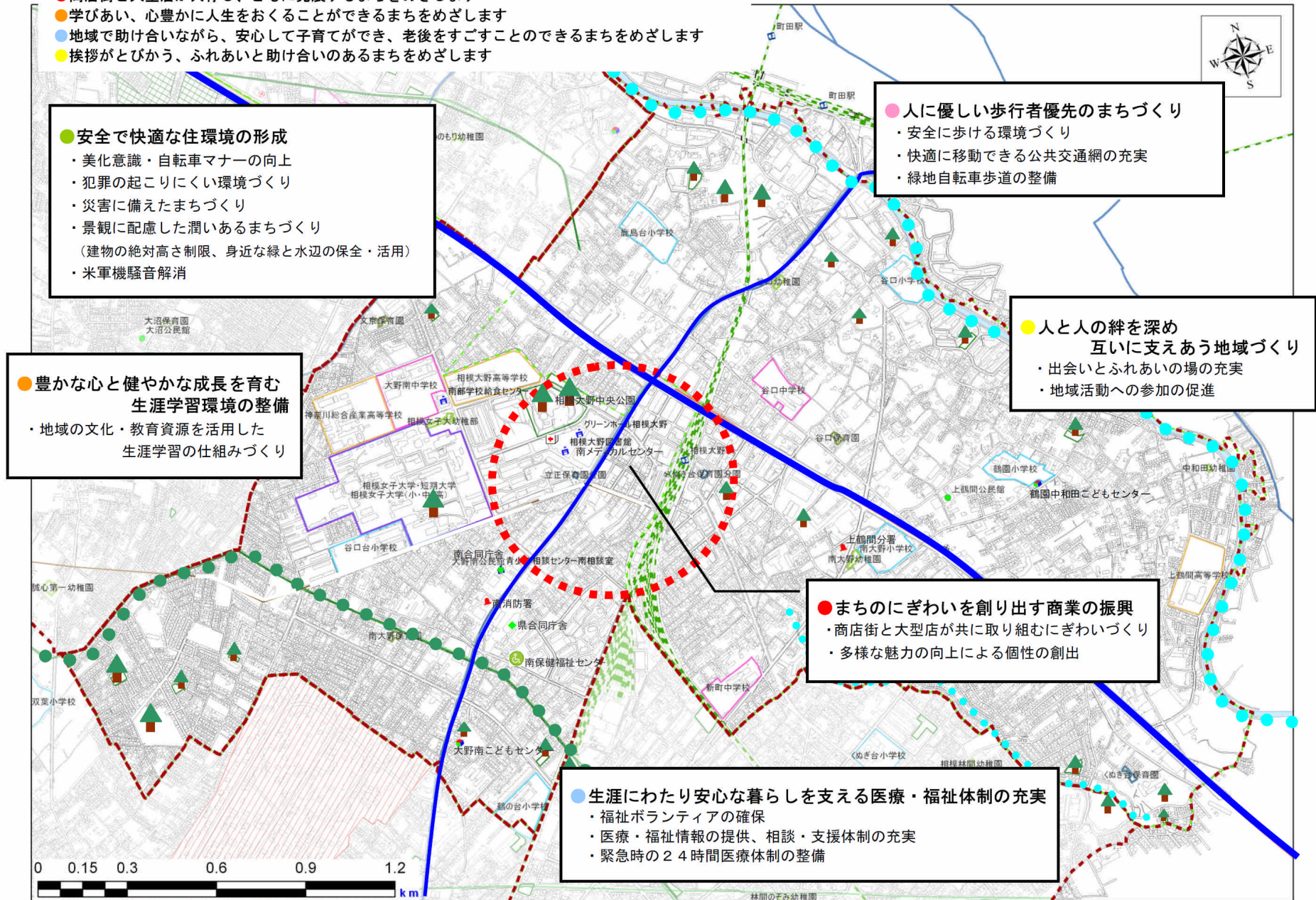
防災対策の推進

- ・災害が発生したときに、あわてることなく素早い行動ができるよう災害に対する日頃の訓練を行う。
- ・一人暮らしの高齢者や障害者、小さな子どもがいる家庭などの災害弱者を、個人情報に配慮しながらも自治会を中心に把握し、いざというときの地域ぐるみの助け合いの体制をつくる。
- ・緊急時にだれもがすぐに使用できるよう、A E D（自動体外式除細動器）の設置数を増やすとともに、使用方法の研修を行い、操作可能な人材を確保する。
- ・不燃建築物による防火帯や建築物の耐震化の促進など災害に強いまちづくりを行う。



4 提言図 (重点提言項目)

- だれもが安心して歩いて暮らすことができるまちをめざします
- だれもが安心して心地よく暮らすことができるまちをめざします
- 商店街と大型店が共存し、ともに発展するまちをめざします
- 学びあい、心豊かに人生をおくることができるまちをめざします
- 地域で助け合いながら、安心して子育てができ、老後をすごすことのできるまちをめざします
- 挨拶がとびかう、ふれあいと助け合いのあるまちをめざします



(付属資料)

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成19年 7月23日(月)	大野南地域まちづくり会議準備会に向けた打合せ会議 ・会則・準備会構成員の検討、公募方法の検討	3名
9月6日(木)	大野南地域まちづくり会議準備会 ・会則等の検討、公募の選考	8名
10月9日(火)	第1回大野南地域まちづくり会議 ・会則(案) 役員の選出	16名
10月24日(水)	第2回大野南地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の抽出	14名
11月20日(火)	第3回大野南地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の抽出 ・分野別提言項目の検討	12名
12月7日(火)	第4回大野南地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の取りまとめ ・重点・分野別提言項目の検討	14名
平成20年 1月22日(火)	第5回大野南地域まちづくり会議 ・重点提言項目の検討	13名
2月13日(水)	第6回大野南地域まちづくり会議 ・重点・分野別提言項目素案の検討 ・地域説明会の日程について	13名
2月27日(水)	第7回大野南地域まちづくり会議 ・提言図、重点・分野別提言書素案の検討	10名
3月14日(金)	第8回大野南地域まちづくり会議 ・提言書素案の決定・確認 ・地域説明会の方法・役割分担等について	11名
4月26日(土)	大野南地域まちづくり提言書(素案)説明会	14名

委員名簿

	氏名	所属等
1	川上 裕男	大野南地区自治会連合会（会長） 大野南地区自治会福祉活動推進協議会（会長） さがみはら安全・安心まちづくり協議会大野南支部（支部長）
2	有泉 健一	大野南地区自治会連合会（副会長） 大野南地区防犯協会（会長） さがみはら安全・安心まちづくり協議会大野南支部防犯部会（部会長）
3	大木 恵	大野南地区自治会連合会（副会長） 大野南地区青少年健全育成協議会（会長）
4	柿島 隆	大野南地区自治会連合会（副会長） さがみはら安全・安心まちづくり協議会大野南支部交通部会（部会長）
5	阿部 昭男	大野南地区自治会連合会（副会長）
6	中村 洋子	大野南公民館（館長）
7	渋谷 正	上鶴間公民館（館長）
8	神崎 三郎	上鶴間地区青少年健全育成協議会（会長）
9	小原 義江	鶴園小学校 PTA（会長）
10	藤原 美由貴	新町中学校 PTA（役員）
11	義澤 照雄	大野南地区社会福祉協議会（会長）
12	村田 征司	大野南地区民生委員児童委員協議会（会長）
13	篠田 清	相模大野駅周辺商店会連合会（会長）
14	小谷 圭一	相模大野北口商店会（副会長）
15	越智 清志	相模大野駅西側地区市街地再開発組合（理事長）
16	上谷 毅	株式会社 伊勢丹相模原店（総務部長）
17	武田 保雄	公募委員
18	新村 玲子	公募委員
19	野村 巖	公募委員

ご協力 表紙イラスト 中里 要

（事務局）

企画政策課 櫻澤 淳	政令指定都市推進課 新井 優香
都市計画課 梶野 喜一	道路管理課 古田 献
相模大野駅周辺整備事務所 望月 悦郎	大野南出張所 伊藤 剛
大野南公民館 宮田 信一	上鶴間公民館 吉村 孝幸